



# 勝山館跡 ガイダンス施設



## パラレル・ニッポン 現代建築展に選定

1996年から2006年までの10年間に国内で建設された建物、もしくは日本の建築家が設計した海外の建物で、時代や環境に配慮した先駆的な建物、全112点が選ばれ、その中の1点として勝山館跡ガイダンス施設が選定されました。また、構造設計部門の登竜門であり、大変名誉のある松井源吾賞(第15回)も受賞しています。

勝山館跡の墳墓群の中に立てられたこのガイダンス施設は、鉄筋コンクリート造りの建物で

床面積は約二九〇㎡、平成十六年三月に完成しました。内装はヒバ・スギ材を使用し、開放的なガラス窓を取り入れた点と、木材を組んだ天井の構造が特徴的です。

また、施設内には勝山館跡の全体が一目でわかる二〇〇分の二の模型や、当時の様子をコンピュータグラフィックで再現した映像が見られる視聴覚コーナーなどがあります。

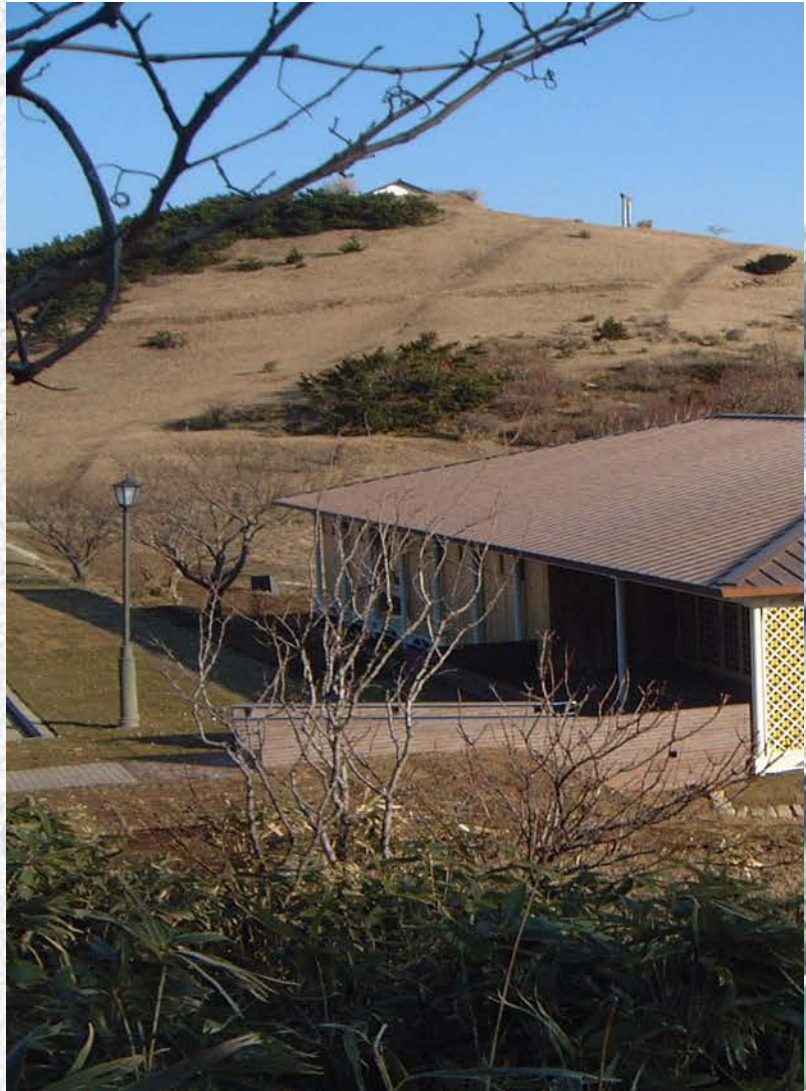
展示物は、勝山館に暮らしていた人々が使用していた生活用具を食器具、台所用品、

茶道具、漁具などに分類し、当時の生活スタイルの復元を試みています。

## 全国にも例のない展示

展示の特徴は、建物直下にあった遺構を建物の中に復元してある点です。全国的にもほとんど例がなく、実物が展示室の床に存在するような独特の雰囲気を味わうことができます。

土葬墓5基、火葬墓1基、火葬施設1基のレプリカが復元されています。



視聴覚コーナー



木材を組んだ天井